

「山廬俳諧堂」復元建設費ご寄付のお願い

一般社団法人山廬文化振興会
理事長 飯田 秀實

俳人飯田蛇笏、飯田龍太が生涯作句活動をした住居「山廬」には江戸時代から母屋南側に二階建ての土蔵が建っていました。蛇笏は明治四十年代からこの蔵二階を「俳諧堂」と称し、ながく句会場として使っていました。そして、明治四十三年には歌人若山牧水が十一日間逗留し、俳諧堂で蛇笏と文学論を交わしました。また、蛇笏とともに「ホトトギス」で活躍した前田普羅は、度々俳諧堂での句会に参加し、宿泊しています。さらに「雲母」の一大事業となった「寒夜句三昧（かんやくさんまい）」の源流となる句会「笹鳴（ささなき）会」の拠点となった蔵でもありました。この蔵二階に蛇笏は高浜虚子直筆の「山廬」扁額を掛け、俳諧堂に集う俳人の研鑽の糧としていました。このように、山廬表蔵「俳諧堂」は飯田蛇笏、雲母あるいは山廬を語るうえで極めて文化的価値の高い建物と考えています。

昭和二十年代、戦後の混乱期にあつて、この蔵は解体されました。六十年近く経ち、この蔵が近隣の農家に移築されていたことが分かり、具体的な調査の結果、老朽化が進み、崩落の危険があることから、山廬文化振興会では「俳諧堂」復元を前提に、蔵を一旦解体、調査した上、現存木材等を慎重に保管しています。

当振興会では平成二十七年、「雲母」の前身である「キラ、」が創刊されて百年の節目にあたることから、具体的な復元計画に着手し、地元笛吹市とも協議を重ねてきました。その結果、笛吹市では「俳句の里づくり事業」の一環として、平成二十八年度「俳諧堂」復元の支援を決め、本体復元費の半額を補助していただけることとなりました。

山廬文化振興会では、「俳諧堂」復元の残りの資金について、より多くの方々のご支援を頂く中で完成させたいと考えています。つきましては、本趣旨にご賛同の上、ご寄付を賜りたく、お願い申し上げます。

尚、「山廬俳諧堂」が復元した後は、俳句を中心とした短詩系の活動、講演会、さらに文化活動の展示発表など、「俳句の聖地」にふさわしい施設としてまいります。また、笛吹市の「俳句の里」の拠点として活用してまいります。

「山廬俳諧堂」復元事業支援賛同者

蛇笏賞受賞者有志
笛吹市文化協会
俳句結社「郭公」
俳句同人誌「今」
俳句同人誌「件」

俳諧堂（蔵二階）について飯田龍太やホトトギスの俳人前田普羅が随筆で紹介している

蔵二階のこと

飯田龍太

数年前の初秋のころ、牧水研究にくわしい歌人の大悟法利雄氏が突然訪ねてきた。初対面の氏は、蛇笏と牧水の交遊について、何か知っていることがあつたら訊きたい、明治四十三年の今日は、牧水がここにやつてきた日です、と云った。

折角だが、私は氏の研究の参考になるようなことは、何も知らない。せめて七十年前とさして変わりがないだらうと思われれるのは、山峡の空のいろ、山の姿だけである。

それに、牧水が十日ほど滞在したという庭先の蔵二階も、戦後間もないころ取り毀して、いまは跡形もない。

この蔵二階は、下が穀倉と作業場になつていて、隅の箱階段を上ると、二階は二十数畳ひと間の部屋になつていた。外見は悪くないが、震度一 of 地震も、正確に感知出来る建造物。その上大工が柱の寸法を間違えたとかで、二階が寸足らず。止むなく梁はむき出しの吹き抜けになつていた。したがつて寒さにも暑さにも敏感に反応した。

それが俳人には好都合というわけでもなからうが、寒中はこの蔵二階にしばしば句会が催された。二夜三夜と続いて、会はしばしば深更に及んだ。農家の人はもとより、医者、教員から床屋さんと、職業年齢はさまざま。三人にひとつ宛ぐらゐの火鉢をかこんで、あるいは瞑目し、あるいはかつと眼を見ひらいて屋根裏を凝視し、一語も発することなく案じ入っている風景は、子供ごころに、一種異様な雰圍気に思われた。

会が果て、人々のざわめきと箱階段のきしむ音が灯と共に消えてからも、闇にたつ蔵二階には、苦惱の吐息が充滿しているように見えた。

この部屋の隅には、大きな夜具棚があり、いつも数人分の寝具が入っていた。

眺方、戸口で人声がする。出てみると、顔見知りの俳人である。昨晩遅くこちらへ着いたので、あちらで勝手に休ませてもらいました、といつて、家人共々朝の食卓につくようなことがしばしばあった。（後段略）

昭和五十六年「小説新潮スペシャル」掲載

山廬に遊ぶの記（抜粋）

前田普羅

山中に倉の屋根が見える、倉の前には八九人の少年が遊んで居た。自分と蛇笏君の通るのを見て一斉に遊戯を止めたが中から二人の賢い少年が進み出て蛇笏君を見た。蛇笏君の息子達であった。蛇笏君は、

「御客様だからおとなしくしなくてはならないよ」

と云ふ。倉の側面を通り過ぎると高い花崗岩の門柱が眼に入る。門を入ると左手にミツチリ青緑の葉をつけた柘榴の樹がある大きな実が幾つも太陽の如く真紅に輝いていた。（中略）

其處へ竹雨一布両君が見え（中略）

折々日影を洩した空はいつか暮れ初め巨幹で暗い奥座敷には蛇笏君等の運動で此の山村にひかれた電燈が灯された。五十燭だと云うけれど横濱の町で見る五燭程の光力しかなかった、しかし夫れも山村らしい気分である此の暗い電燈下で四人膳を並べて夕食をした。

食事終つて四人は中庭を隔てた倉の二階に移り打寛いで談笑する事になつた。倉の階子段は可也急で上り切ると其処には二十畳程の座敷が有り、虚子先生の書かれた「山廬」の額が高く掲げてある。自分の背後には低い天守閣の窓の様な窓がある。肘を掛けると戸が押されて薄暗い外が見えた。此時自分は山廬の客となつた事をシミジミ感じた。（大正九年十一月七日夜）

「ホトトギス」大正九年十二月号

山廬俳諧堂復元のための資料写真

一般社団法人山廬文化振興会作製



飯田家家相図(明治期)



俳諧堂の蛇笏(大正7年)
後方の額は高浜虚子書「山廬」



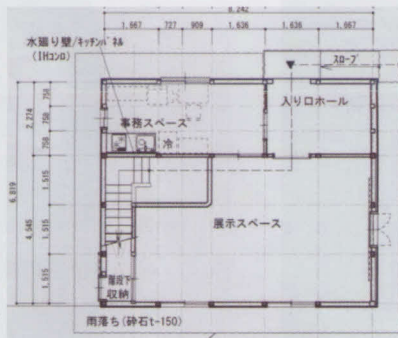
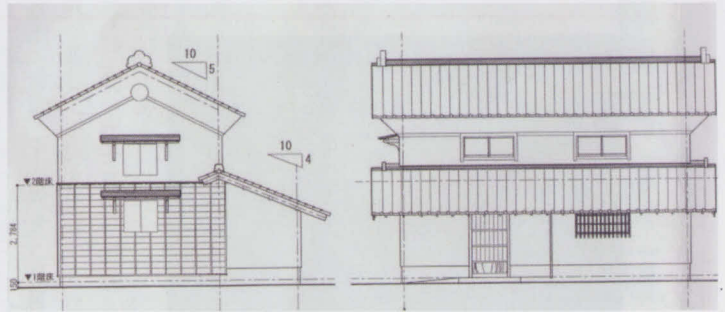
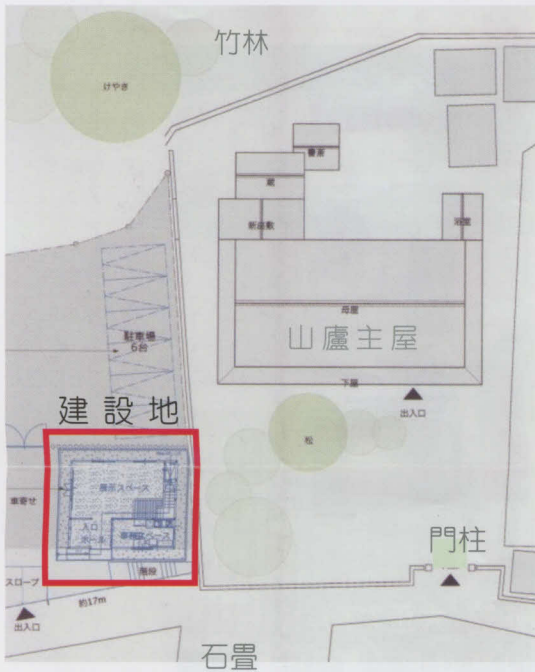
俳諧堂 龍太撮影(昭和17年)



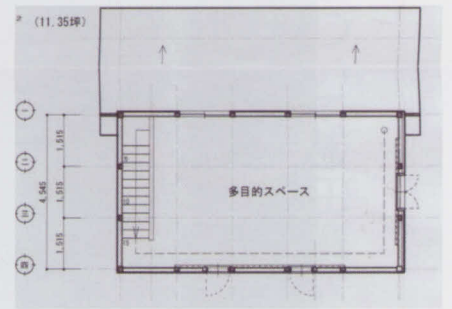
母屋縁側の蛇笏
後方が俳諧堂

母屋屋根上から 俳諧堂(右)
(龍太撮影/昭和18年頃)

俳諧堂復元図面



1階図面



2階図面



俳諧堂復元事業寄付金納付先

金融機関: ゆうちょ銀行 □座記号番号 00190-8-602837

□座名義 一般社団法人 山廬文化振興会

1 □ 5,000円 何□でも可

(振替払込請求書兼受領書を領収証に代えさせていただきます)

寄付金目標額

1,300万円 (募集期限: 平成29年3月31日)

問合せ先

一般社団法人 山廬文化振興会 俳諧堂復元事務局

TEL 055-234-5123 FAX 055-234-5122 Email: sanro-bs@mxe.biglobe.ne.jp

俳句の聖地 山廬俳諧堂の復元は山梨の文化の誇り

公益財団法人山梨総合研究所 副理事長 早 川 源

飯田蛇笏・龍太は二代にわたって生涯生地であった東八代郡境川村小黒坂（現笛吹市）の地を離れることなく句作を続け、格調高い名句を数多く紡ぎだしました。

江戸後期に建てられた蛇笏・龍太の旧居は「山廬」と呼ばれていますが、その前庭には俳諧堂（表蔵）があつて、高浜虚子直筆の扁額『山廬』が掲げられ、「雲母」の選句場として、また俳人たちの研鑽の場となっていました。

「幾山河越えさりゆかば寂しさの……」で有名な歌人若山牧水は蛇笏と同年齢であり、早稲田大学入学以来親交を深めていました。その牧水が明治四十三年山廬を訪ね、長逗留したのが、表蔵二階「俳諧堂」でした。

「キララ」「雲母」と続く俳句芸術・文化の発信拠点であつたこの蔵は戦後の混乱期にあつて行方がわからなくなっていました。幸い、境川在住の俳人雨宮更聞氏の調査により、近隣の農家に移築されていたことが明らかになり、伝統的建造物の調査復元を数多く手掛けている甲州市の石川工務所によつて慎重に解体保存されてきました。

今般、山廬文化振興会では、精神的よりどころであり、俳句素材の宝庫といわれ、さらに俳句愛好者から「俳句の聖地」と称えられている山廬に、六十数年ぶりに蔵の復元を進めています。

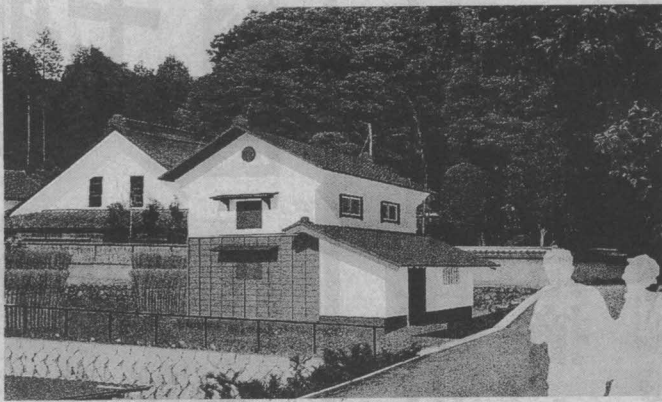
父子二代にわたり同じ地で活動し、その環境が現存することは極めて稀なことです。蛇笏・龍太が愛した文化的土壌を大切にし、山梨はもとより広く全国に、世界に、次の世代に、『西の松山、東の笛吹』といわれるような俳句文化の発信拠点としていきたいと考えております。

我が国は明治維新、敗戦に続く高度成長という大きな坂道をのぼり詰めました。人口減少時代を迎え、成長から熟成へ、経済大国から文化の大国の時代へと向かいつつあります。

皆様のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成二十八年五月

笛吹・境川「山廬」の蔵



俳諧堂(蔵)の完成イメージ図。奥に見えるのは母屋

俳諧堂の復元 来月着工

俳人飯田蛇笏、龍太さん父子が暮らした笛吹市境川町小黒坂の居宅「山廬」敷地内で来月、「俳諧堂」と呼ばれた蔵を復元する工事が始まる。俳誌「雲母」の発行所となった山廬の歴史を伝える

建物で、来年3月末にも完成する見通し。関係者は「俳諧堂の復元を、笛吹、境川を俳句の里として、あらためて発信するきっかけにしたい」としている。
〈高野芳宏、笠井憂弥〉

蔵の復元計画を進めているのは山廬文化振興会(飯田秀實理事長)。蔵は2階建てで、「俳諧堂」は蛇笏が書齋として使った2階を指す。明治・大正・昭和にわたる作句活動の歴史があり、歌人若山牧水ら文人が滞在したほか、俳誌「雲母」の発行所にもなった。昭和20年代中ごろに別の場所に移築されたが、昨年が「雲母」創刊100周年に当たることもあり、同振興会が復元を目指していた。復元する蔵は2階建てで、高

「雲母」に関する資料を展示、同市ゆかりの俳人をテーマにした企画展なども行う。2階の多目的スペースでは句会や講演会などを開く。

一方、同市は俳句関連の事業を展開。全国の小中学生を対象に作品を募集する「市小学生・中学生俳句会」は今年、20回目を迎える。講師が小学校に出向いて俳句の詠み方を指導する出前授業を開くほか、昨年度に引き続き俳人夏井いつきさんによる俳句教室も計画している。

市教委生涯学習課の担当者は「今後もさまざまな俳句イベントを企画し、老若男女問わず俳句に親しんでもらえるような環境をつくっていきたい」と話す。飯田理事長は「俳諧堂を俳句文化の発信拠点にしていきたい。短歌や川柳などに関するイベントも開催できればいい」と話している。

来春完成 蛇笏・龍太の遺品展示

02 東京 払込取扱票 通常払込料金加入者負担

口座記号番号 金額 ※ 千 百 十 万 千 百 十 円
 0 0 1 9 0 8 6 0 2 8 3 7

加入者名 一般社団法人 山廬文化振興会 料 金 備考

山廬俳諧堂復元事業寄附金 1口 5,000円 口
 所属又は紹介者 ()

おところ (郵便番号)
 おなまえ 記入は楷書ではっきり

依頼人 様 日 附 印
 電 話 - -
 携帯電話 - -

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号 東第56119号)
 これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号 0 0 1 9 0 8 通常払込料金加入者負担

6 0 2 8 3 7

加入者名 一般社団法人 山廬文化振興会

金額 ※ 千 百 十 万 千 百 十 円

おなまえ ※
 ご依頼人 様

料 金 日 附 印

備考

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
 切り取らないでお出しください。

この受領証は、大切に保管してください。